

地域の音楽普及と音楽文化の向上に邁進

シリーズ “架け橋” の楽器店を訪ねて Vol.1

ヤマハ音楽振興会(梅村充理事長)は、音楽文化向上に寄与する事業の一つとして、1999年から「ヤマハ音楽支援制度」を設け、『音楽奨学支援』『留学奨学支援』『音楽活動支援』『研究活動支援』、そして2010年からは『地域音楽活動支援』も加えて、5件の支援活動を行っている。

中でも『地域音楽活動支援』は、対象を地域の音楽グループや団体(学校除く)とし、

応募受付窓口を楽器店に指定しているところに大きな特色があり、両者を結びきっかけにもなっている。

地域音楽振興は、特に地域に根を下ろす楽器店にとっては、事業の継続、発展を考える上で必要不可欠なテーマであることは論を俟たない。本誌では、これを好機と捉え『地域音楽活動支援』を有効に活用する楽器店取材した。(澤野)



近藤直弘社長

例えば親御さんに音楽(楽器)の経験があった、子供にもやらせたいというのと、親御さんは経験がなくて、子供に音楽をやらせたい

「地域に根ざす店としては、地域の音楽活動が盛んにならないと将来はありません。ですからそのお手伝いをするのは責務と想っています。もちろん利益度外視で赤字になっては元も子もないのですが、中長期で考えれば地域の音楽振興に携わることが、すぐに効果は表れなくても、巡り巡って楽器の需要に結び付きます。

千葉県中西部の木更津市に本拠を構えるコンドー楽器(近藤直弘社長)は、昭和22年創業という地元の老舗。近藤社長は4代目となる。鍵盤楽器や管弦打楽器、楽譜・音楽書籍等の販売を中心に、音楽教室は市内および近接市で展開しており、テリトリーの人口は50万人弱。そこに44教室、約4、500人の生徒を擁する。

千葉・木更津市

コンドー楽器

という場合とでは、始まってしまえばその差は分からないのですが、どうも経験のない親御さんにとっては音楽教室は敷居が高いようで、『やらせたいのですが、私は音楽が全然分からない。家で教えられない』と、そんな心配をする方が本当に多いんです。

ですから経験のある大人が増えれば、状況は変わりますし、経験のある大人は余裕ができてくれば、自ら始める人も出てくると思います。

大人の教室も初心者が多いと言われますが、当社が調べた限りでは、例えば管楽器はまったく経験がないにしても、子どもの頃にピアノを習っていたとか、何らかの経験があるという人がほとんど。やはり何か経験がある人の方が入りやすいんですね。

ですから子供は減ってきていますが、いまここで子供に触らせることに手を抜いてしまうと、たぶん大人も崩壊してしまうんです」

そう語る近藤社長が、かねてより親交のある『かずさジュニアオーケストラ』(KJO/別掲)の徳尾和彦団長に、『地域音楽活動支援』という制度があることを知らせたのは、一昨年のこと。

KJOは、木更津に『サイエンスパークかずさアカデミアパーク』が設けられ、その中核施設として1997年に『かずさアカデミアホール』が竣工したことから、ジュニアオーケストラの結成を望む市民の声に応じて

かずさジュニアオーケストラ

達成感で生きる自信に繋がりたい



2012年12月23日の親子Xmasコンサート



徳尾和彦団長

発足したもの。

また並行して『かずさアカデミア音楽コンクール(ピアノ)』、『かずさ音楽祭』、『ミュージック・マスターズ・コース・イン・かずさ』(大友直人、アラン・ギルバート主宰/現ミュージック・マスターズ・コース・イン・ジャパンの前身)などの音楽プロジェクトも進行していたが、近藤社長は日本青年会議所の一員として、また徳尾氏はホールの役員として、これら一連の計画に関わっていた。

「支援、すなわち評価されたことも契機になって、KJOをもっと知ってもらおうと、

地域の学校に鑑賞教室を開きませんかとアプローチしています。たまたま私がPTA会長で、校長も音楽好きということから、木更津第一小学校の創立140周年記念行事の一つとして、今年(2013年)11月23日に、合唱を交えたKJOのコンサートが実現しました。木更津は、童謡の『証城寺の狸囃子』の町(市内の証誠寺に伝わる『狸囃子伝説』)に着想を得て、野口雨情が作詞、中山晋平が作曲)なので、昔から子供たちは『狸囃子』を演っています。その踊りをKJOの演奏をバックに演ろうということになったのです。

『かずさジュニアオーケストラ(KJO)』は、木更津を中心に近隣市内に住む小学校2年生から高校2年生で結成されるオーケストラ。その年によっても異なるが、団員は最近では45人前後で推移しているという。

練習は月3回、指導は楽器毎に音大卒の先生方に依頼。初心者の入団も歓迎し、楽典も指導するなど、指導体制の充実が特色の一つとなっている。8月には定期演奏会を開いており、既に15回を数える。このほか、春、秋、クリスマスに、カジュアルな演奏会も開催している。

「入団した子供たちには何らかの達成感を得て欲しいと思っています。練習すれば成果が出る。苦しさを乗り越える力を養うことで、生きる力、自信に繋がればと望んでいます。

また演奏を通じて作曲家の背景、心情、曲への思いなど、芸術に対する感受性を育んでもらうことも目標です。さらに音楽や楽器のことで、親子の会話が弾むといいですね」と徳尾和彦団長は期待する。

とは言え楽団の運営は、時には持ち出しにな

千葉県はジュニアオーケストラ活動が盛んですが、それは習志野市や松戸市方面で、千葉市より南の方は人口が少ないこともあってオケへの関心は一般も学校もまだまだ。

でも、やはり生演奏のインパクトは大きいようで、見に来ていた親御さんも子供もその迫力ある演奏にビックリ。団員にしたい、やりたいという応募も何件かあったようです」地域の音楽グループ・団体と地域を結び付けるのも、やはり楽器店ならではの仕事。コンドール楽器は、地域の音楽文化のコーディネーターとしても存在感を増しつつある。

ることもあり、財政的に厳しいのが実情。そのやりくりで腐心することは珍しくない。

恒例の『親子Xmasコンサート』(未就学児のための親子コンサート)は、例年持ち出しになるが、前回(2012年)はヤマハ音楽振興会の支援を受けることができ、とても助かったと振り返る。

「コンドール楽器さんに教えていただいて申請したのですが、子供の音楽への感受性を養うという意味では、まさに『親子Xmasコンサート』は、地域の音楽振興という目的と合致すると自負しています。

コンサートや団員募集の告知は、コンドール楽器の店頭を活用させていただいていますし、KJOの野口芳久音楽監督(君津市出身)は、ピアノはコンドール楽器の先代社長夫人のお母様である、尾田綾子先生から指導を受けたとか。また近藤家やご親戚の子供さんも、KJOの団員になっています」

徳尾団長は、ヤマハの支援、地元の楽器店との親交、サポートに意を強くしている。